

# 市内各地の寺院などから 平和の鐘の音響く

市内の平和団体の呼びかけや、浄土真宗はじめ仏教各宗派などの呼びかけで、市内各地の寺院などでは、8月6日や9日、そして15日に、「二度と戦争はさせない」「原水爆は必ずなくす」と誓い合う「平和の鐘」の音が響き渡りました。

宗派に関係なく、この行動に参加したそれぞれの寺院が所有する梵鐘を、6日は



**日本共産党上越市議員団ニュース**

No.841 2024年8月25日

連 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)  
絡 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)  
先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))  
ホームページ <https://jcpjoetsugiindan.webnode.jp/>

8時15分に、9日は11時2分に、15日は正午にそれぞれ撞いたものです。

各寺院の中には、住職のご厚意で、一般の参加者も鐘を撞くことができるようにした寺院もあり、一人ひとりが平和への祈りを込めながら心を込めて撞きました。

唯一の被爆国である日本が、核兵器禁止条約に批准しないばかりか、「核抑止論」を強硬に唱えて「核の傘」の下に入ろうとしている姿は見るに堪えません。そんな政府の態度をあらためさせ、平和を希求する厳かな鐘の音が、岸田首相など自公政府にも届くことを祈るのみです。

# 交通量の多さなどを確認 新井柿崎線議連が現地の状況を視察

市議会の県道新井柿崎線整備促進議員連盟(上野団長、橋爪副団長が所属)は19

日、清里区、三和区、頸城区、大潟区などの現地を訪れ、交通量や道路の状況などを視察しました。



この道路は上越地域の動脈の一つとして大きな役割を担っており、この日も多くの車両が行き交っていました。

交通量が多いこと、半径の小さなカーブや幅員の狭い箇所が残されていることなど、多くの課題が浮き彫りになり、整備の促進を県に強く求めていく必要があることを確認しました。

# 「猛暑よりも自公政府の方が困る」と 暑さ吹っ飛ばしてスタンディング

大潟区の市民有志は、17日、岸田首相の政権投げ出しなど、無責任な政治を続

けている自公政府の退陣や、自民党そのものの政治からの撤退を求めて、猛暑の

中、道行く車などに訴えるスタンディングを行いました。

スタンディングは11:30からの30分間。気温は29.9度と30度近い暑さで、炎天下ではじっとしていても汗が噴き出します。

そのような中、「猛暑よりも怖いのは戦争する国づくり。“防衛費”に予算を湯水のようにつぎ込んで、インボイスやマイナンバー制度で大増税を狙っている自民党政治は、岸田首相が辞めただけでは変わらない。自民党をそっくり辞めさせよう」と、強く訴えました。

